

## 〈看護学科〉

### 基礎看護学 1

教授：芳賀佐和子	基礎看護学
准教授：平尾真智子	基礎看護学
講師：菊池麻由美	基礎看護学
講師：羽入千悦子	基礎看護学
助教：青木 紀子	基礎看護学

#### 教育・研究概要

##### I. 教育方法・評価に関する研究

###### 1. フィジカルアセスメントの教授法

1 年次後期に 30 時間で教授する全身の系統的アセスメントの講義や演習の教授法について、また、実習でのフィジカルアセスメント教育について、研究を継続している。

###### 2. 排尿への援助に関する研究

トイレとベッド上での排尿時の自律神経活動と、ベッド上で排尿があった場合となかった場合の自律神経活動の違いを、心拍変動を用いて明らかにした。

###### 3. ストーマ患者への援助に関する研究

ストーマ増設患者のストーマ部の局所条件とストーマ管理の困難度との関連を明らかにした。

##### II. 看護診断に関する研究

1. NANDAI 看護診断への新しい診断名の提案をめざし、「腹部膨満感」という患者現象の同定を行った。

2. 看護診断プロセスへの、中範囲理論“症状マネージメント”の活用可能性を検討した。

##### III. 看護歴史に関する研究

1. 高木兼寛の健康教育観について、大正期の臨時教育会議における師範・実業教育に関する発言内容から明らかにした。

2. 日本の看護歴史 120 年の歩みのうち「看護の学術団体」「外国看護の移入」について明らかにした。

3. 明治 28 年に翻訳出版されたビルロートの看護書について明らかにした。

#### 「点検・評価」

それぞれが研究テーマをもち継続的に研究する一方で、基礎看護学領域として看護基礎教育課程での

「フィジカルアセスメント能力の育成」に関しては領域としての研究を継続している。また、症状マネージメント教育のための検討を継続した。今後も教育方法については、さらにテーマを広げ継続し協力しながら研究を進めていきたい。

また、看護学の発展や方向性に関する示唆を得るための看護歴史研究や本学のスクールミッションにも関係する慈恵の看護歴史研究も継続していきたい。

#### 研究業績

##### I. 原著論文

- 1) 棚橋康之<sup>1)</sup>、黒田裕子<sup>1)</sup>、山田紋子<sup>1)</sup>、津田泰伸<sup>1)</sup>(北里大学)、下舞紀美代(長崎大学)、菊池麻由美、小泉純子(新座志木中央病院)、中藤三千代(東京臨海病院)、杉田里絵(東京衛生学園専門学校)。看護師が知覚する患者現象「腹部膨満感」の特徴の明確化に関する質的研究 NANDA-I 看護診断名として“腹部膨満感”を提案するための初段階調査を通して。看護診断 2009; 14(1): 15-26.

##### III. 学会発表

- 1) 平尾真智子、芳賀佐和子、蝦名総子、高木兼寛の健康教育観に関する研究(第 3 報) - 臨時教育会議での師範教育・実業教育に関する発言内容から。第 109 回日本医史学会。佐倉, 6 月。[日医史雑 2008; 54(2): 119]
- 2) 江川安紀子、羽入千悦子、中島紳太郎、諏訪勝仁、穴澤貞夫。局所条件から見たストーマ管理度の検討。第 26 回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会。青森, 2 月。
- 3) 小泉純子(新座志木中央病院)、菊池麻由美、棚橋泰幸<sup>1)</sup>、高原静子<sup>1)</sup>、中藤三千代<sup>1)</sup>(東京臨海病院)、黒田裕子<sup>2)</sup>、津田泰伸<sup>2)</sup>(北里大学)、斉藤紋子(静岡赤十字病院)、杉田里絵(東京衛生学園専門学校)、下舞紀美代(長崎県立大学)。「腹部膨満感」に関する看護診断の同定についての研究(第一報)。日本看護診断学会第 14 回学術大会。横浜, 7 月。[看護診断 2008; 13(2): 161-2]
- 4) 菊池麻由美、棚橋泰之<sup>1)</sup>、高原静子<sup>1)</sup>、中藤三千代<sup>1)</sup>(東京臨海病院)、小泉純子(新座志木中央病院)、津田泰伸、斉藤紋子(静岡赤十字病院)、杉田里絵(東京衛生学園専門学校)、下舞紀美代(長崎大学)。「腹部膨満感」に関する看護診断の同定についての研究(第二報)。日

本看護診断学会. 横浜, 7月. [看護 2008; 13(2): 163-4]

#### IV. 著 書

- 1) 平尾真智子. 第7章 看護の学術団体. 日本看護歴史学会編, 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修. 日本の看護 120年: 歴史をつくるあなたへ. 東京: 日本看護協会出版会, 2008. p.133-44.
- 2) 大石杉乃, 羽入千悦子. 第6章 外国看護の移入. 日本看護歴史学会編, 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修. 日本の看護 120年: 歴史をつくるあなたへ. 東京: 日本看護協会出版会, 2008. p.121-132.

## 基礎看護学 2

教授: 大石 杉乃 看護情報管理学, 看護管理学, 看護歴史学

### 教育・研究概要

#### I. 看護情報管理学に関する研究

1974年から2006年までを対象にし, 都道府県における看護師学校卒業生と准看護師学校卒業生の総数における看護師学校卒業生数の比率(以下, 教育の看護師化率)の変動, およびこれらに影響を及ぼす要因, 指標としての教育の看護師化率の意義を検討した。また, 医療や看護の実態と看護師養成の状況を分析することにより, 看護師教育の地域差の持つ意義について検討した。

2008年度は分析を行った。

#### II. ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵検閲史料の分析による占領下日本の医療・看護の状況とGHQによる検閲の実情に関する研究

米国メリーランド大学図書館ゴードン・W・プランゲ文庫(以下, プランゲ文庫)には占領下日本において1945年から1949年に出版された刊行物とその検閲記録が所蔵されている。本研究の目的はGHQ文書(GHQ/SCAP Records)の公衆衛生福祉局に関する記録(PH&W Records)からは評価出来なかった, 医療および看護に関するGHQの方針と実態を明らかにするとともに, 当時の日本における医療・看護関係書物の発刊状況を明らかにすることである。

2008年度は, パンフレットに焦点をあてて現地調査を行った。

#### III. 第二次世界大戦後の看護改革に関する研究

現在の看護の法律や教育制度の基礎は, 連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)看護課により, 占領下に築かれた。しかし, わが国の実情などに応じて様々な改変が行われている。GHQが行った看護の変革が現在までどのように変遷してきたかを, 社会的な要因, アメリカの国立公文書館や日本の国会図書館などで収集した史料, GHQ関係者からのインタビューや書簡などの情報にもとづいて分析している。研究の目的は, GHQが理想とした看護の理想像と日本の実情とに乖離が生じた要因, GHQと日本側関係者がこれらの問題をどのように解決していったかを明らかにすることである。

本学の教育においては, 「看護マネジメント」の講義の中で, 研究方法と成果を紹介した。

#### 「点検・評価」

看護情報管理学に関しては, 最新の情報を更新し, 研究を継続している。また, 看護および看護教育の実態分析と, 歴史研究により, 看護政策に関する情報の収集分析を継続している。

講義において, これらの研究方法と成果を紹介し, 学生に看護研究の必要性を伝えるとともに看護管理学および情報管理学分野の研究に対する興味を喚起するように努力している。

## 研究業績

#### II. 総 説

- 1) 大石杉乃. 特集 60周年記念号 特別記事 写真と特集で振り返る病院の60年. 病院 2009; 68(1): 65-8.
- 2) 川島みどり, 田中幸子, 大石杉乃. 看護のクロニクル 未来創造の道標. 看護 2008; 60(10): 68-77.

#### III. 学会発表

- 1) 大石杉乃. 都道府県における看護課の設置: メリーランド大学プランゲ文庫所蔵『都政通信』調査から. 第28回日本看護科学学会学術集会. 福岡, 12月.
- 2) 大石杉乃. 厚生省看護課設置にみる第二次世界大戦後の看護改革の評価. 第109回日本医史学会. 佐倉, 6月. [日医史誌 2008; 54(2): 124]

#### IV. 著 書

- 1) 大石杉乃, 羽入千悦子, 第6章 外国看護の移入. 日本看護歴史学会編, 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修. 日本の看護 120年: 歴史をつくるあなたへ. 東京: 日本看護協会出版会, 2008. p.115-

32.

- 2) 吉川龍子, 大石杉乃. 第9章 戦争と看護. 日本看護歴史学会編, 川島みどり, 草刈淳子, 氏家幸子, 高橋みや子監修. 日本の看護120年: 歴史をつくるあなたへ. 東京: 日本看護協会出版会, 2008. p.165-82.
- 3) 大石杉乃. サムス. 伊藤正男, 井村裕夫, 高久史磨 総編集. 医学書院医学大辞典. 第2版. 東京: 医学書院, 2009. p.1077.

## V. その他

- 1) 大石杉乃. 写真で振り返る病院の60年. 病院. 2009. 68(1): 1-7.
- 2) 大石杉乃. 雑誌『病院』の写真と特集で振り返る病院の60年. 医界新聞 2008; 2811: 2-3.
- 3) 大石杉乃. 【看護学生の論文 入選エッセイ・論文の発表】論文部門 講評 “看護に優れる”をめざしてほしい. 看教 2008; 49(8): 702-3.

## 成人看護学

教授: 藤野 彰子	がん看護学, 緩和ケア
教授: 藤村 龍子	クリティカルケア, 周手術期看護
講師: 渡邊 知映	がん看護学, 化学療法とQOL

### 教育・研究概要

本学卒業生における医療安全の観点からみた看護技術に関する困難度と成人看護学実習に求められるリスクマネージメント教育のあり方の検討を行った。本学科の過去3年間の卒業生のうち本院に勤務しているもの35名から回答を得た。大学教育の中で学んだ看護技術が医療安全の観点から十分なものであったかの問いには多くの卒業生が「あまり十分ではなかった」と解答し、卒業生の多くが入職後、点滴・内服に関する技術に不安を感じていることが明らかになった。これらの結果から、学内演習項目に点滴注入ポンプを使用した点滴の管理、気管内吸引等を加えた。

藤野は緩和ケア病棟に勤務する看護師のインタビューを通し、ケアリングタッチの重要性を明らかにしようとしているが、本年度はすべてのデータの分析が終了し、論文を作成している過程である。

渡邊は、外来化学療法の適応拡大を受け、外来化学療法看護の質向上のため、外来化学療法看護ガイドラインを試作し、有効性の検証のための介入研究を実施した。また、がん治療に続発するリンパ浮腫

に対するケアの実態について全国調査を行い、術後リンパ浮腫に関するセルフケア教育の重要性について明らかにした。

### 「点検・評価」

成人看護学実習に求められるリスクマネージメント教育のあり方の検討から、看護技術の内容を検討し、点滴の管理、救急蘇生、心電図等を学内演習に取り入れた。また、手術室、ICU、血液浄化部等の臨地実習をも導入することで、学生の看護技術の見学や体験が増加した。これは学生にとって意義があり継続している。看護学実習において、学生に看護技術をできるだけ多く体験させるよう、教員は努力し、徐々に成果は上がっている。

一方、准教授が欠員であり、各教員の研究が、遅滞してしまったことが反省点である。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 庄司大悟<sup>1)</sup>, 松阪 諭<sup>2)</sup>, 渡邊知映, 末永光邦<sup>3)</sup>, 篠崎英司<sup>4)</sup>, 松田正典<sup>5)</sup>, 久保木恭利<sup>6)</sup>, 小倉真理子<sup>7)</sup>, 市村 崇<sup>8)</sup>, 陳 勁松<sup>9)</sup>, 水沼信之<sup>10)</sup>, 畠 清彦<sup>11)</sup>(癌研有明病院). FOLFOX4療法におけるRDI(Relative Dose Intensity)の検討. 癌と化療 2008; 35(11): 1895-900.

### III. 学会発表

- 1) 石垣靖子(東札幌病院), 小迫富美恵(横浜市立市民病院), 濱口恵子<sup>1)</sup>, 花出正美<sup>2)</sup>(癌研有明病院), 庄村雅子(東海大学). 渡邊知映. 外来がん化学療法をうける患者・家族へのケアの標準化へ向けたガイドラインの試作. 第23回日本がん看護学会学術集会. 那覇, 2月.

### IV. 著 書

- 1) 藤野彰子. 継続看護と健康教育. 大西和子, 岡部聡子編. 成人看護学概論. 第2版. 東京: ニューベルヒロカワ, 2009. p.309-21.
- 2) 渡邊知映. 4. 造血幹細胞移植後の性生活. 室井一男編. やさしい造血幹細胞移植後のQOLの向上. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2009. p.40-8.
- 3) 渡邊知映. 第IV章10-A: 女性にとってのがん, 第IV章10-B: 子宮頸がんケア, 第IV章10-C: 子宮体がんケア, 第IV章10-D: 乳がんケア. 吉沢豊子, 鈴木幸子編著. 女性看護学. 東京: メヂカルフレンド社, 2008. p.244-58.
- 4) 渡邊知映. II. 臨床編 a 総論21: セクシュアリティに関するカウンセリング. 神田善伸編. みんなに役立つ造血幹細胞移植の基礎と臨床: 上巻. 大阪: 医薬ジャーナル社, 2008. p.315-9.

## 老 年 看 護 学

教 授：櫻井美代子 老年看護学  
准教授：伊達久美子 老年看護学

### 教育・研究概要

#### I. 老年看護学における褥瘡予防の効果的な教育方法の開発とその評価に関する研究

老年看護学では、昨年度から高齢者の褥瘡予防の効果的な教育方法を開発するために、体圧分布測定器を用いて臥床時と車椅子座位時の体圧分布を視覚的にとらえながら、褥瘡予防に向けた安全で安楽な体位の工夫を試みる体験学習を行っている。今年は、本学習方法の体験学生と従来の学習体験の学生にアンケートを実施し、教育方法の評価を行った。

本学習方法の効果として、体験した学生は褥瘡予防への意識が高まったことと予防に適した援助方法の理解が深まったことが示唆された。

#### II. 認知症高齢者の家族心理に関する研究

櫻井は、認知症高齢者を自宅で介護している家族が、親を施設に入所させよう決心するまでの心の変化、さらには入所させた後の親に対する思いについて明らかにするためにインタビューを実施している。今年は特に老親扶養・介護意識や世間体意識が高いと思われる農村部を中心に家族介護者への聞き取り調査を行った。

#### III. 高齢者の生活習慣と健康に関する研究

伊達は、高齢者の生活習慣と健康との関連や身体活動量の変動要因に関する研究を継続している。運動行動促進を目的としたテレビゲーム等の家庭用運動ソフトや器具を用いた健康づくりプログラムを高齢者が利用した際の影響について、安全性と有用性の側面に焦点をあてた調査を本年度から開始した。

#### 「点検・評価」

教育面では、介護保険制度の改正に伴い2年次の老年期ヘルスケア実習Ⅰに「地域支援事業」を加えたため、居宅高齢者支援に対する学生の興味関心は高まった。しかし地域包括支援センターの機能や役割を理解するためには、学生のレディネスを考慮し3年前期に実施時期を変更する必要がある。また研究面では、老年看護学領域として取り組んだⅠの褥瘡予防の効果的な教育方法に関する研究結果を看護学科の報告書にまとめた。今後は、「褥瘡発生時のケア」

を含めた高齢者の褥瘡予防に関する教育の開発に向けてさらに研鑽していきたい。Ⅱについては本年度までのデータを分析し、研究成果の一部を関連する学会等で発表していく予定である。Ⅲについては、今まで蓄積してきたデータを分析し、その成果を公表していくとともに、新たに開始した調査も進めていきたい。

## 精 神 看 護 学

教 授：川野 雅資 精神看護学  
講 師：林 世津子 精神看護学

### 教育・研究概要

本年度に精神看護学の教授が就任し、講師、助教と3名の教員が揃った。

川野は、特に児童・思春期のメンタルヘルスを支援するネットワークが必要と考え、神奈川県下における児童・思春期と家族を支える資源の実態について調査している。なお、これまでの研究成果を学会に発表し、書物に表すなどの社会的貢献を行い、その成果を教育内容に取り入れている。

林は、精神疾患患者への看護計画の説明と同意のプロセスに焦点を当て、看護師を対象に面接調査を行い、看護計画の説明と同意のプロセスにおける看護師の認識や葛藤、実際に同意を得るための実践活動を明らかにした。看護師は、精神疾患患者との認識の相違を埋めるために尽力していた。また、慈恵大学附属第三病院・森田療法センターでの看護経験者を対象にした面接から、入院森田療法における看護をどのように認識しているか検討した。入院生活の中で、患者がとらわれない生活を取り戻すために、看護師自らが看護の役割にとらわれない必要が明らかになった。

また、メンタルヘルスケア実習の実習病院を新たに開拓する必要が生じ、地理的な点も考慮して吉祥寺病院に依頼した。川野と吉祥寺病院とが共同でDVDによる教材づくりに取り組んでいる。

#### 「点検・評価」

21年度カリキュラム改正に伴い教育内容の見直しが必要であり、最新の内容を教授する教育内容の精選と教授方法の工夫および教材開発が必要である。そのためにも、学会参加や研究活動を継続していくことが求められる。来年度、大学院が開設されるので、時間の活用を工夫する必要が出てくるであろう。



このような視点で、実習病院と共同で教材の開発に取り組んでいることは評価できる。実習病院との良好な関係を形成することは継続的に重要である。今年度発足した地域連携精神看護学研究会を進展させていくことが望まれる。

なお、教育方法の向上のために、学内演習における学生の学習内容、メンタルヘルスケア実習での学生の学習内容の分析を開始した。また、森田療法における臨床看護の知恵が教育活動に生かされ、手ごたえとなっていることから、このことを教育効果として実証していきたいと考えている。

## 研究業績

### II. 総説

- 1) 川野雅資, 町田正信, 森田哲至. 【看護におけるコミュニケーション 落とし穴とその解決法】知っておきたい理論とスキル プロセスレコードとロールプレイング. 臨看 2008; 34(12): 1767-82.
- 2) 池田優子, 益子育代, 川野雅資, 野中麻衣子. 座談会・看護におけるコミュニケーション 落とし穴とその解決法(前編). 臨看 2008; 34(14): 2159-67.
- 3) 池田優子, 益子育代, 川野雅資, 野中麻衣子. 座談会・看護におけるコミュニケーション 落とし穴とその解決法(後編). 2009; 35(1): 133-42.
- 4) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その①「期待しない」. 臨看 2009; 35(1): 126.
- 5) 深谷房江, 大工原千春, 川野雅資, 井出 馨, 酒井弘子. 精神臨床看護検討レポート ピック病患者的の看護についての一考察 24時間隔離から外泊までの看護. 臨看 2009; 35(1): 127-31.
- 6) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その②「同じ気持ちになれない」. 臨看 2009; 35(2): 250.
- 7) 本間和美, 堀田徹子, 小林いづみ. 川野雅資. 精神臨床看護検討レポート 療養病棟における生活支援 外出支援を試みて. 臨看 2009; 35(2): 261-4.
- 8) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その③「良い点も良くない点も受け入れる」. 臨看 2009; 35(3): 400.
- 9) 一ノ山隆司, 明神一浩, 川野雅資, 舟崎起代子, 上野栄一. 精神臨床看護検討レポート 関節拘縮がある統合失調症患者のケアに治療的契約を取り入れた事例. 臨看 2009; 35(3): 410-6.
- 10) 川野雅資. 川野雅資のいただいた言葉 その④「少し前に相談すること」. 臨看 2009; 35(5): 802.
- 11) 舟崎起代子, 一ノ山隆司, 川野雅資, 高野悦子, 上平悦子, 上野栄一. 精神臨床看護検討レポート 「患者の安寧は看護師の言葉だけではない」ことの経験知 自己の癒し体験をケアに生かすケアリング. 臨

看 2009; 35(5) 811-5.

### III. 学会発表

- 1) 明神一浩, 一ノ山隆司, 上野栄一, 川野雅資. 幻聴の自己対処に関する文献検討. 第39回日本看護学会—看護総合—学術集会. 金沢, 7月.
- 2) 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 明神一浩, 上野栄一, 石川幸代, 福山なおみ, 川野雅資. 感性から対人関係の学習効果を狙いとした絵本の教材化に関する研究. 第20回日本看護学校協議会学会. 成田, 8月.
- 3) 川野雅資. (シンポジウム: 笑と癒し)座長. 第20回日本看護学校協議会学会. 成田, 8月.
- 4) 明神一浩, 一ノ山隆司, 上野栄一, 川野雅資. 実習指導者がロールモデルを示す効果の検討. 第34回日本看護研究学会学術集会. 神戸, 8月.
- 5) 京谷和哉, 一ノ山隆司, 明神一浩, 舟崎起代子, 上野栄一, 川野雅資. 精神看護学実習前後の不安・イメージに関する変化要因の分析. 第39回日本看護学会—看護教育—学術集会. 岐阜, 8月.
- 6) 一ノ山隆司, 舟崎起代子, 明神一浩, 上野栄一, 川野雅資. データマイニングによる精神科病院の理念・方針の分析. 第39回日本看護学会—看護管理—学術集会. 熊本, 10月.
- 7) Kawano M, Matsuo S. Case study of treatment of Japanese patient with depression. APNA 22nd Annual Conference. Minneapolis, Oct.
- 8) 一ノ山隆司, 明神一浩, 上野栄一, 川野雅資. 就労継続支援事業所の実習を終えた学生の地域連携精神看護の視点. 第28回日本看護科学学会学術集会. 福岡, 12月.
- 9) 明神一浩, 一ノ山隆司, 上野栄一, 川野雅資. 精神看護における癒しとケアリング効果の有効性に関する研究. 第28回日本看護科学学会学術集会. 福岡, 12月.
- 10) 川野雅資, 本江朝美, 石川純子. (ラウンドテーブル)ワトソン看護論を教室内学習, 演習, 臨地実習に応用する試み. 第28回日本看護科学学会学術集会. 福岡, 12月.
- 11) 川野雅資. 会長講演. 第1回日本地域連携精神看護学研究会. 東京, 12月.

### IV. 著書

- 1) 川野雅資編著. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図. 東京: 中央法規出版, 2008.
- 2) 川野雅資監修, 伊藤千代子編. 看護学実践: Science of Nursing: 在宅看護論. 東京: 日本放射線技師会出版会, 2008.
- 3) 川野雅資監修, 伊藤まゆみ編. 看護学実践: Science of Nursing: 慢性期看護 緩和・ターミナルケ

ア. 東京：日本放射線技師会出版会，2008.

4) 川野雅資監修，平井さよ子編. 看護学実践：Science of Nursing：看護管理学，東京：日本放射線技師会出版会，2008.

## 小児看護学

教授：濱中 喜代 小児看護学  
准教授：長 佳代 小児看護学

### 教育・研究概要

#### I. 小児看護の現場で生き生き働き続けるための教育支援プログラムの開発とその検証

臨床での小児看護の実践力や看護師の成長を助けるために，教育と臨床とで連携・協働して小児看護の現場でいきいきと働き続けるための卒前・卒後に行う教育支援プログラムの開発とその検証のための研究を進め，研修会の参加者に対して調査を行い，教育効果と課題を明らかにした。

#### II. 子どものヘルスプロモーション促進への基礎教育における外来看護実習と外来看護の構築に関する研究

科研の分担研究者として，昨年行った研究の成果を学会に発表するとともに，日本外来小児科学会でワークショップを開き，外来での看護学生の実習に関するカリキュラム内容を検討した。昨年検討したプログラム（「診察ってなに」「吸入ってなに」「点滴ってなに」等）について，看護学生にも参加を呼びかけ，外来で実践し，4～6歳の子どもと親を対象にデータを収集した。

#### III. 小児慢性腎不全患者の社会的成長過程の実態と情報提供による支援策の構築

長は，小児慢性腎不全患者が社会的成長の過程で直面する問題と対処のありようをあきらかにし，患児・家族へのよりよい支援体制構築のための基礎的知識とするとともに，学校生活や進学就職に関する患児・家族の体験と情報をまとめた患児・家族向け小冊子の作成を行うことを目的として，患児ならびに家族へのインタビュー調査を行い，結果を質的に分析しまとめた。

#### 「点検・評価」

Iの研究については継続し，教育支援プログラムの実践の評価を行うことができた。IIにおいては，実践的なデータ収集を行っており，今後さらに外来

看護への応用を検討していきたい。IIIの研究は，研究結果の一部を関連学術集会において発表した。次年度，分析と考察を深め，臨床への還元を検討したいと考えている。

## 研究業績

### III. 学会発表

- 1) 日沼千尋(東京女子医科大学)，中村由美子(青森県立保健大学)，大矢智子(千葉県こども病院)，濱中喜代，大木伸子(東邦大学)，児玉千代子(東海大学). 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発－卒業前研修会の教育効果と課題－. 日本小児看護学会第18回学術集会. 名古屋，7月.
- 2) 濱中喜代，大木伸子(東邦大学)，児玉千代子(東海大学)，日沼千尋(東京女子医科大学)，中村由美子(青森県立保健大学)，大矢智子(千葉県こども病院). 小児看護の現場で働き続けるための教育支援プログラムの開発－卒業前研修会のプログラム試案の作成と実践－. 日本小児看護学会第18回学術集会. 名古屋，7月.
- 3) 長 佳代. 小児腎移植後患者の学校生活に関する母親の思いと働きかけ. 第30回日本小児腎不全学会. 那須塩原，10月. [第30回日本小児腎不全学会総会・学術集会プログラム抄録集 2008；110]

### IV. 著書

- 1) 濱中喜代. II. 子どもの発達理解 成長・発達を促すケア. 浅倉次男(山形県立保健医療大学)監修. 子どもを理解する：「こころ」「からだ」「行動」へのアプローチ. 東京：へるす出版，2008. p.39-44.

## 母性看護学

教授：茅島 江子 女性の健康と看護ケア  
講師：細坂 泰子 周産期ケア，月経研究

### 教育・研究概要

女性のライフスタイル各時期における様々な健康問題について研究し，母性看護における看護援助のあり方について考察した。

#### I. 青年期における月経随伴症状と心身の特性との関連

月経が開始し，性機能が成熟しつつある青年期の女性323名を対象に，月経随伴症状に関連する心身の因子を明らかにすることを目的に，体型，生活習慣，健康観や性役割の認識等との関連について分析した。対象の約8割が普通体型であったが，半数は太っていると認識していた。月経随伴症状（MDQ

尺度)との関連を分析した結果、月経前では大学生で、BMI ( $p<0.05$ )、否定的月経観 ( $p<0.01$ )、セルフケア ( $p<0.05$ )、性役割パーソナリティ (BSRI 尺度)のアンドロジニー ( $p<0.01$ )が、高校生では主観的健康統制感 (HLC 尺度)の家族因子 ( $p<0.05$ )、偶然的因子 ( $p<0.05$ )が有意に関連していた。月経中の関連因子は大学生で、否定的月経観 ( $p<0.05$ )、セルフケア ( $p<0.01$ )、BSRI 尺度のアンドロジニー ( $p<0.05$ )が、高校生では HLC 尺度の偶然的因子 ( $p<0.05$ )が関連していた。

## II. 性の問題と看護援助

### 1. 看護と性—人工妊娠中絶事例の看護

看護場面で出会う性の問題として、人工妊娠中絶事例を取り上げ、人工妊娠中絶による生物学的・精神的、性的後遺症を踏まえて、看護師の判断とケアのポイント、家族への支援について概説した。

### 2. 異性間のカウンセリングにおけるタッチングの考察

看護師がカウンセリングをする際に、異性の患者にタッチングをすることの是非について症例を通して検討した。看護師と患者が異性である場合、タッチングは性的感情を喚起する危険があり、禁忌あるいは慎重でなくてはならないことを踏まえ、今後、さらに検討していく必要がある。

## III. 大学における助産師教育の今後の方向性に関する調査

助産師教育は 2004 年の天使大学専門職大学院の誕生を機に、大学院および大学専攻科・特別別科という形で学部終了後に教育する傾向に移行している。大学院および大学専攻科・特別別科の開設を困難にしている理由としては、助産師教育に必要な経済上の問題、助産師教育に対する意見の不統一、教員確保の困難である。今後、行政上の支援として、助産師教育に対する経済支援が期待される。

## IV. 大学教員の満足度と関連する要因の調査

母性看護学実習における大学教員の満足度とそれに関する要因について、全国の 4 年制大学の母性看護学教員を対象に、看護系大学教師の実習教育に対する教師効力尺度、職業性ストレス簡易調査票を用いた調査を行うべく、準備を進めている。

### 「点検・評価」

日本女性はおよそ 8-9 割が月経随伴症状を抱えている。月経に対する肯定観を強めることはその女性

の健康を守ることであり、重要な課題である。今回の調査から月経関連因子は月経症状だけでなく、その対象をとりまく様々な事柄を考慮して健康問題を解決しなければならないことが示唆された。今後も女性の健康問題をより向上させるために、研究を続けていく必要がある。

患者の性の問題に関する看護援助については、看護教育の中で十分な教育が行われておらず、臨床現場で戸惑うことも多い。また、カウンセリングが必要な場合、看護師としての役割とカウンセラーとしての役割をどのように両立させるのか、難しい問題がある。

今後は、セクシュアリティと看護に関する国内外の文献検討を行い、患者の性の問題と看護に関する研究の動向を探り、性の問題に対する看護援助のあり方について検討していく。

助産師教育については、近年、大学の中での選択制の助産師教育が推進されてきたが、それらの教育の弊害が教育現場・臨床現場で明らかになってきた。今後も、助産師教育の現状を踏まえ、質の高い助産師教育のあり方について検討していく。

## 研究業績

### II. 総説

- 川野雅資, 茅島江子, 大谷真千子(千葉県立衛生短期大学). 看護と性(その 1)人工妊娠中絶事例の看護. 日性科会誌 2008; 26(1): 73-7.

### III. 学会発表

- 春日広美, 渡邊知映, 平尾真智子, 茅島江子. 臨床実習における形成評価と今後の課題(その 3). 第 5 回慈恵看護研究会. 東京, 3 月.
- 川野雅資, 茅島江子, 藤野彰子. 異性間のカウンセリングにおけるタッチングの考察. 第 28 回日本性科学学会学術集会. 京都, 10 月.

### V. その他

- 茅島江子. 助産師教育の現状と今後の方向性. お産サポート JAPAN ニュースレター 2009; 18

## 地域看護学

教授: 奥山 則子 地域看護学  
准教授: 島田 美喜 地域看護学  
助教: 笹井 靖子 地域看護学

## 教育・研究概要

地域看護学領域では、現在大きく2つの研究テーマに取り組んでいる。その一つは、地域看護学教育に関するもので、今年度は、保健師教育の卒業時の到達度や教育カリキュラムについて他大学の教員や現場の人たちと共に調査研究を実施した。二つめは、地域終末期ケアに関するソーシャルキャピタルの研究で、今年度はその調査研究結果をまとめた。

### 「点検・評価」

1. 保健師基礎教育機関卒業時における技術項目と到達度について、実践の保健師と教育機関の教育者双方の合意に基づいて作成する研究会のメンバーとして参画した。その結果を第67回日本公衆衛生学会で報告した。今回の研究により、保健師基礎教育機関卒業時における技術項目と到達度が明らかとなり、保健師基礎教育並びに現任教育に適用できる可能性が考えられた。しかし、設定された到達度を満たす学生を育成するための、教育体制並びにカリキュラム検討の必要性が明らかとなった。今後もさらにそれらの技術の到達のための具体的な教育の方法について検討していく予定である。

2. 地域終末期ケアに関するソーシャルキャピタル研究は、調査研究結果をまとめ、第11回日本地域看護学会学術集会で報告をした。今後も研究を継続して保健師の役割を明らかにする予定である。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 吉岡洋治<sup>1)</sup>, 木下由美子<sup>1)</sup>(筑波大学), 清水由美子, 奥山則子. 学士課程における地域看護学の履修開始時期に関する調査研究. 日地域看護会誌 2008; 10(2): 94-100.

### III. 学会発表

- 1) 島田美喜, 奥山則子. 地域終末期ケアシステムの構造とシステム構築のプロセス. 第11回日本地域看護学会学術集会. 西原町, 7月. [日地域看護会誌]
- 2) 嶋津多恵子, 池田玲子(さいたま市), 島田美喜, 嶋野洋子, 八幡裕一郎(国立保健医療科学院). 「5つの『食べる』で育てる, 育つ」さいたま市食育推進計画(第一報)計画策定プロセス. 第67回日本公衆衛生学会総会. 福岡, 11月. [日公衛会抄集 2008; 67回: 298]
- 3) 池田玲子, 嶋津多恵子(さいたま市), 嶋野洋子, 八幡裕一郎(国立保健医療科学院), 島田美喜. 「5つの『食べる』で育てる, 育つ」さいたま市食育推進計画(第

二報)野菜摂取との関連. 第67回日本公衆衛生学会総会. 福岡, 11月. [日公衛会抄集 2008; 67回: 298]

- 4) 麻原きよみ<sup>1)</sup>, 荒木田美香子(国際医療福祉大学), 大木幸子(杏林大学), 岡本玲子<sup>2)</sup>, 奥山則子, 海原拍逸子(横浜市), 宮崎美砂子(千葉大学), 村嶋幸代(東京大学), 長江弘子<sup>3)</sup>(岡山大学), 大森純子<sup>1)</sup>, 小林真朝<sup>1)</sup>, 平野優子<sup>1)</sup>(聖路加看護大学), 鈴木良美(東邦大学). 保健師基礎教育における技術項目と卒業時の到達度に関する研究. 第67回日本公衆衛生学会総会. 福岡, 11月. [日公衛会抄集 2008; 67回: 329]

## V. その他

- 1) 奥山則子, 内田美保(東京大学), 坂本史衣(聖路加病院), 河西あかね(東京都多摩府中保健所), 小林典子(結核研究所). シンポジウムIV 感染症とリスクマネジメント. 日看科会誌 2008; 28(1): 95-101.

## 在宅看護学

講師: 春日 広美

### 教育・研究概要

#### I. 在宅看護学における e-learning システム活用に関する研究

在宅看護学の授業・演習・実習において、2005年より自己学習支援ツールとして e-learning システムを活用してきた。活用状況とその効果について、限られた時間数の中で、効果的に演習型授業を行うことが可能であること、教員の同席が制限される在宅ケアの実習において、遠隔的な学習状況であっても、学生の学習ニーズに応じた教育が提供できることについて成果を得てきた。

特に在宅ケア実習における活用の状況については、2009年3月に当大学で行われた e-learning システムを活用した4大学合同のシンポジウムで紹介した。今後は更に活用の範囲や方法を拡大する可能性について、研究していきたい。

#### II. 在宅がんターミナル期の療養にかかる費用と遺族の意識に関する研究

在宅で最期をむかえる患者(在宅においては「療養者」)の増加が見込まれる中で、療養者の経済的な側面にも配慮して訪問看護を行うことが重要であることに着目した。そこで、在宅で最期をむかえたがんターミナル療養者の遺族に、最期の在宅療養期間にかかった療養費用と、その費用に対する遺族の意識を調査した。この研究は看護学科研究費によ



て実施した。

### III. 訪問入浴サービスに同行する看護職員に求められる専門的な技術に関する研究

訪問入浴サービスに同行する看護職員は、身体状態の変化しやすい入浴という場面で、利用者宅における唯一の医療職として、入浴の間、身体状態を管理する役割を担っている。利用者によっては複雑な医療処置があったり、入浴中に急変するなど、高度な医療ニーズに対応する必要があることがうかがわれる。実際にどのような緊急事態、また医療ニーズがあるのか、訪問入浴サービスの看護師に調査を行った。

### IV. 移行期の看護に関する研究

病院から在宅へ、療養の場のシフト化が進められる社会状況において、在宅療養移行期にはどのような看護援助が求められるのかを研究する。今年度はまず、医療依存度の高い高齢患者への在宅療養指導に関して、担当する看護師はどのような困難を感じているのかを調査した。

#### 「点検・評価」

看護学生に対する在宅ケアの教育方法、訪問看護の対象の理解に関する研究を主に継続して実施してきた。中でも、医療依存度の高い在宅療養者、がんターミナル患者への看護といった、今後の在宅領域において、問題となることが予測される現象に対して研究をすすめる、人々が安心して在宅で療養することを可能とする社会へ貢献できる提言をしていきたい。

在宅移行が推進される一方で訪問看護師数が不足しているという在宅看護の現状を背景に、在宅看護学の教育は年々重視されてきている。看護の教育機関には、将来訪問看護師として地域に貢献し、療養者の充実した在宅療養生活をサポートできる看護師を育てる教育が期待されている。これまで同様に、在宅の臨床で必要とされる人材を育成することをめざした基礎教育を計画していきたい。

## 研 究 業 績

### I. 原著論文

- 1) 春日広美, 佐藤正子, 遠山寛子. 在宅ターミナル期の療養にかかる費用の実際と遺族の意識. ヘルスサイエンス研究 2008; 12(1): 51-7.